

Blossom -lite-

no.11

1, 教祖のひながたを学ぼう

2, step by step

3, ちょこっとぎゃらりい。

●教祖のひながたを学ぼう●

女子青年逸話篇アンケート

今月はアンケート3位の逸話篇をご紹介します(^▽^)/

好きな逸話篇 3位



「16. 子供が親のために」

梶井伊三郎の母キクが病気になり、次第に重く、危篤の容態になって来たので、伊三郎は夜の明けるのを待ちかねて、伊豆七条村を出発し、五十町の道のりを歩いてお屋敷へ帰り、教祖にお目通りさせて頂いて、「母親の身上の患いを、どうかお救け下さいませ。」と、お願いすると、教祖は、

「伊三郎さん、せっかくやけれども、身上救からんで。」

と、仰せになった。これを承って、他ならぬ教祖の仰せであるから、伊三郎は、「さようございますか。」と言って、そのまま御前を引き下がって、家へかえって来た。が、家へ着いて、目の前に、病気で苦しんでいる母親の姿を見ていると、心が変わって来て、「ああ、どうしても救けてもらいたいなあ。」という気持で一杯になって来た。

それで、再びお屋敷へ帰って、「どうかお願いします。ならん中を救けて頂きとうございます。」と願うと、教祖は、重ねて、

「伊三郎さん、気の毒やけれども、救からん。」

と、仰せになった。教祖に、こう仰せ頂くと、伊三郎は、「ああやむをえない。」と、その時は得心した。が、家にもどって、苦しみ悩んでいる母親の姿を見た時、子供としてジツとしていられなくなった。

又、トボトボと五十町の道のりを歩いて、お屋敷へ着いた時には、もう、夜になっていた。教祖は、もう、お寝みになった、と聞いたのに、更にお願ひした。「ならん中でございませうが、何んとか、お救け頂きとうございます。」と。すると、教祖は、

「救からんものを、なんでもと言うて、子供が、親のために運ぶ心、これ真実やがな。真実なら神が受け取る。」

と、仰せ下された。

この有難いお言葉を頂戴して、キクは、救からん命を救けて頂き、八十八才まで長命させて頂いた。



皆さんの声

😊 長い道のりを歩いて、2度も教祖に助からんと言われても、やはり助けて欲しいとお願いしに行く真実の心と、真実の心なら神が受け取ると、こちらが真実の心を持って働いて願えば助けてくださると教えていただけるところが好きです。

😊 親のために思ったら、なんでもできる。それが、父、母、祖母、祖父、親神様に繋がる。日々、生かしていただいて、子と親が「ありがたい」という気持ちに素直になれる。子と親の愛が素晴らしいと思いました。

Step by step

asahijoshiseinen

本部祖霊殿

祖霊殿

教祖殿の西側にある建物は、大正3年（1914年）に当時の教祖殿として建てられ、昭和8年に現在の教祖殿ができて以降、祖霊殿として使われるようになりました。

祖霊殿では、道に尽くした方々をお祀りし、その遺徳を偲びお礼申し上げます。

本部祖霊殿には三舎があり、中央に中山家の祖霊、向かって右側につとめ人衆の祖霊、左側に教会長、ようぼく、信者の祖霊が祀られています。

出直し

天理教では、人が亡くなることを「出直し」といいます。教祖は「出直し」を「古い着物を脱いで、新しい着物に着替えるようなもの」とお教え下さっています。

私たちの体は親神様からの「かりもの」で、亡くなる時には神様にお返しします。そして、その魂は親神様がよう頑張ったなあと抱きしめて下さり、そしてまた、新しい体（着物）をお借りして、この世に生まれて帰ってくるのです。

廻廊

御本部の東西南北の礼拝場、教祖殿、祖霊殿を結ぶ廻廊の長さは、1周約800mあります。廻廊を歩いていると、木の床を乾拭きしている人の姿を目にします。

天理教では、親神様のご守護によって生かされている喜びを表す自発的な行為を「ひのきしん」と呼び、この廻廊拭きも、その一つの姿です。

ちょこっとぎやらりい。



カメラマン:sekisanphoto

みなさん、こんにちは🌸ちょこっとぎやらりい。のお時間です^^

先月は、梅の花が御本部中庭で咲いていると、お便りを出したかと思えます。

1ヶ月経ったおぢばでは、桜が見ごろになっています🌸

今年のおぢばは、ちょっと一味違うみたいで、、なんと！あの有名な枝垂れ桜がライトアップされていました！

期間限定で1時間だけ（今年は3月24日～4月4日、19時～20時）ですが、生で見るとなんとも「お～」と声が出てしまいます。

実際に来られていた方全員口を揃えて、「お～」と言ってはりました。

めっちゃ綺麗です。私が保証します。

少しでもおぢばを近くに感じていただけたら、嬉しいです。

それでは、また次回お会いしましょう。。。

See you next time…